

令和4年度 旧松山管内 生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和4年7月28日（木） 13：30～15：30

2 場 所 松山市青少年センター 3階大ホール

3 講演内容

- ・ 演 題 「授業で学級をつくる」～個別最適な学びの実現に向けて～
- ・ 講 師 愛媛大学教育学研究科（教職大学院） 教授 山内 孔 氏

(1) 授業で学級をつくる

ア 学級づくりと学級経営

学級づくりとは学級経営である。学習集団として機能するために、子どもの学びが円滑に進むように、ねらいを持って集団に働きかけなければならない。学級づくりに特化した時間は存在しないが、1日6時間の授業で学級をつくっていく。1時間の授業の中には教科等のねらいと学級づくりのねらいがある。時期によっては、学級づくりのねらいに重きを置き、学級の風土の基礎を固めることも大切である。



<写真1 研修会の様子>

イ 学級づくりの実際

(ア) 積極性を育てる

積極性（やる気）を育てるために、返事にこだわるようにする。返事は短くとも声を発する行為であり、自分を出す行為である。そのため、「はいっ」と言う機会を意図して設定する。

(イ) 丁寧さを育てる

丁寧さを育てるために、名前にこだわるようにする。名前は人生で最も多く書く文字であり、両親からの贈り物である。自分の名前を丁寧に指導する。

(ウ) 思いやりの心を育てる

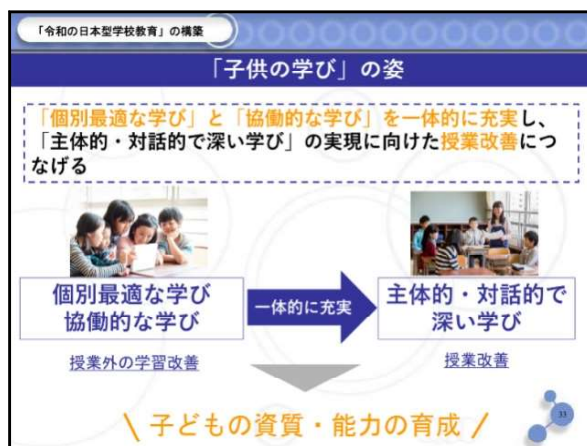
思いやりを育てるために、お礼にこだわるようにする。お礼は他人のための行動であり、思いやりのある心を表出することである。言葉に出してお礼を言うことを指導する。

ウ 指示の重要性

指示とは、子どもにして欲しい行動や活動を伝える指導言であり、指示は子どもの学びに最も作用する言葉である。発問や説明は主に授業中に行い、指示は授業中や学校生活全般で行うものである。指示は、学級経営の生命線ともいえる。端的で具体的な指示をするために、教師は指示の準備をする必要がある。また、子どもは指示を聞く準備をしなければならない。

(2) 個別最適な学びと協働的な学び

次代を切り拓く子どもたちに求められる資質・能力には、文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力がある。今後の教育の在り方として、令和の日本型学校教育の構築について、中央教育審議会から答申が出された。その中では、個に応じた指導を一層重視し、「指導の個別化」や「学習の個性化」を図り、子どもたちにとって「個別最適な学び」が進められなければならない。また、「個別最適な学び」が孤立した学びにならないように、「協働的な学び」を充実させることも重要である。異なる考え方を組み合わせたり、よりよい学びを生み出したることで、主体的・対話的で深い学びに通じていく。その過程において、ICTの活用は不可欠である。これまでの実践とICTを状況に応じて組み合わせることが大切である。子どもたちがいろいろな学び方を経験し、それぞれの技能を獲得したり、それぞれの特性を理解したりすることで、何をどう学ぶかを子どもたちが選択できる環境が可能となる。今後は、場面や状況に応じて子どもが学び方を選択して学習を進めていく。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を充実させ、子どもの資質・能力を育成していかなければならない。



<資料1 「子どもの学び」の姿>

(3) 子どもに身に付けさせたい読解力と教師の授業力

読解力の向上に向けて、文章を書くことは重要である。プリントやワークシートの活用や板書をあまりとらないことなどにより、文章を書く機会が少なくなると、キーワードのみを記憶しておけば対応が可能となる。しかし、単語を理解することは、文を理解することではない。

板書を正確に写すということは、文節や文の単位で覚えるということであり、意味が分かっていると覚えることができない。1時間分の板書を写せるようになる集中力と書く力を身に付けさせる必要がある。子どもは文字を使って思考するため、書く力が向上すれば考える力も向上する。子どものやる気を育てる工夫をしながら、書く力や考える力を身に付けさせることが必要である。

教師は誰もが教育のプロとして、目の前にいる子どもに対して授業を行う。授業は、ライブである。子どもが必要とすることは一人ひとり違い、興味や関心も一瞬にして変化してしまうため、その一瞬しかない場面が教室にはある。子どもが没頭するための準備を行い、仕掛けを作る必要がある。そのために、教師は常に技術を磨き続ける「職人」でなければならない。授業力を向上させるために、教師自身が主体的に取り組む必要がある。自らが授業を実践し、優れた授業を参観し、授業について語り合うことを通して、授業力を向上させることが大切である。

<資料2 読解力ワークシート>